

一般社団法人日本繊維製品消費科学会 「2017年 学会賞 年度論文賞」を受賞
布製品用の香りづけスプレー剤による香りが居住空間の印象に与える効果に関する研究

ライオン株式会社（代表取締役社長・濱 逸夫）と信州大学繊維学部 西松 豊典教授・金井 博幸准教授とが共同で行いました、布製品用の香りづけスプレー剤による香りが居住空間の印象に与える効果に関する研究が、「日本繊維製品消費科学会 2017年度 学会賞 年度論文賞」に選出され、2017年6月24日（土）学会賞贈賞式（於：京都女子大学）にて受賞いたしました。

■布製品の感触や香りが使用者に与える「心地」に関する研究への取り組み

当社は、柔軟剤や香りづけスプレー剤などの衣料用仕上げ剤によってもたらされる布製品の感触や香りが、使用者の快適性（心地）へ与える影響について、人間快適工学^{*}を用いて感性工学的研究に取り組んでいます。そして、主観評価である官能検査と客観評価である生理的機能量（心電図、脳波、眼球運動など）を測定することによって、これまでに消臭効果を有する柔軟剤を使用することで洗濯物を畳むときのストレスが軽減されることを実証するなどの研究成果を発表しています。

※ 生活者が製品の快適性である心地を評価した心理量、製品の消費性能、製品を使用しているときの人の生理的機能量を相互に関連付けて、「快適な製品」を設計する工学

■研究概要

本研究では、布製品用の香りづけスプレー剤を使用することによって、居住空間の印象がどのように変化するかを官能検査（主観評価）と客観評価（生理的機能量の測定）で検証を行いました。

官能検査の結果から、実験に用いた3種類のフローラル系の香りがあることで居住空間が「華やかな」、「上品な」印象になることが分かりました。また、生理的機能量の測定結果より、被験者はフルーティフローラルの香りによって、①交感神経系活動が抑制されてリラックスする傾向になること、②対象（居住空間）に対する興味や関心が高まることが、推測されました。

■本研究の独自性

室内環境に取り入れた香りがもたらす快適性の研究事例は少ないのが現状です。本研究の成果は香りによる刺激が居住空間の印象に影響を及ぼすことを示唆しており、布製品を通して日々の生活をより豊かにする可能性があることを示す有用な知見です。

一般に、視覚情報は嗅覚情報よりも影響が大きいことが知られていますが、今回の研究は「香り」という嗅覚情報が視覚情報に影響を与えることを官能評価と身体の生理測定の両面から実験により明らかにしたことが高く評価されて、今回の年度論文賞受賞となりました。

受賞式は2017年日本繊維製品消費科学会 年次大会期間中の2017年6月24日（土）に京都女子大学にて、執り行われました。

○受賞者：ライオン株式会社 藤井 日和、宮原 岳彦、岡本 貴弘、高岡 弘光
信州大学 西松 豊典、金井 博幸

○タイトル：布製品用芳香剤が居住空間の印象に与える効果

○書誌事項：繊維製品消費科学 Vol. 57 No. 3 (2016) p. 205



<授賞式のシーン>

一般社団法人 日本繊維製品消費科学会 諸岡 晴美会長より
年度論文賞を授与される当社藤井 日和



<授賞記念写真>

中央) 一般社団法人 日本繊維製品消費科学会 諸岡 晴美会長
左) 当社 岡本 貴弘
右) 当社 藤井 日和

◆ 日本繊維製品消費科学会 学会賞 年度論文賞

繊維製品消費科学について精力的に優秀な研究を行い、その業績を学会誌に発表し、繊維製品消費科学の進歩に著しく貢献があった学会員を表彰するものです。年度論文賞は、2016年1月～12月に投稿・受理されたすべての論文の中から、最優秀と認められた論文の著者に授与されます。

以上

<お問い合わせ窓口>

ライオン株式会社 コーポレートコミュニケーションセンター 03-3621-6661